

等  
高  
小  
學  
國  
史  
繪  
圖  
解  
說  
書

上  
卷

士博學文  
著也彦村中



社會式株  
行發社習學

43255

教科書文庫

4
210
-1930
20000 65236

中央圖書館  
資料室

謹呈

文學博士

中村孝也著

小學國史繪圖解說書

高等·上卷

395.9  
N411



東京·大阪

株式會社 學習社 發行

例言

一、「小學國史繪圖解説書」編述の趣旨は、自序の中に述べた如く、二つの目的を有してゐる。その一は教授資料を提供することである。その二は國史研究の指導たらしめることである。この二つを並行させることに力を注いでゐる。故に、本書の記事に對しては、賢明なる判斷を加へて研究しつゝ、その中から適當な教授資料を採擇するようにして載きたい。

一、本書は、どこまでも「小學國史繪圖」の解説であつて、「小學國史」の教授参考書ではない。特に、茲に之を明言しておく。即ち、「小學國史繪圖」の一々に就いて、學術的に解説を施すのを主眼としたものであるから、直接に「小學國史」それ自身を解説して居らない。況してその各章に就いての教授上の注意には及んで居らない。それを試みるのには、別個の著述を要する。そして、それは今の場合の仕事でない。混雜を避けるために、この二つを截然區別させてしまつたのである。

一、本書はこのやうに、一々繪圖に即してゐるため、記述が斷片的である。それは本書の性質上、當然の結果であることを理解して載きたい。そして、これを適當に按排補綴して、教授の材料とせられるように、熱心に希望する次第である。

以上

高等小學國史繪圖解説書上卷

目次

口 繪	頁
聖德太子.....	一
大國主命.....	三
磐式部.....	四
◎寫眞版 源氏物語繪詞の一節.....	五
第一 神代	
神代の出雲地方.....	六
大八洲國の圖.....	六
出雲大社と天地根元造.....	七
—— 出 雲 大 社 本 殿 ——	
—— 出雲大社正立面圖及び平面圖 ——	
—— 天 地 根 元 造 ——	
◎建築圖 日本建築屋根の基本型式.....	八
第二 神武天皇の創業	
神武天皇御東征行路.....	一〇
大和要地圖.....	一〇
目次	

---

神武天皇大和橿原宮に御即位あらせたまふ.....	一〇
神武天皇鳥見山において御先祖の神々をまつりたまふ.....	一一
第三 皇大神宮の創立	
皇大神宮.....	一五
—— 皇大神宮寫眞 ——	
—— 皇大神宮全景 ——	
—— 神明造側立面圖 ——	
皇大神宮式年御遷宮.....	一七
垂仁天皇の御陵.....	一九
古墳の發制品.....	一九
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第三).....	二〇
第四 皇威の振興	
四道將軍派遣地方.....	二三
景行天皇西征御道筋.....	二三
武内宿禰.....	二三
第五 朝鮮半島の服屬と文物の傳來	

古朝鮮と三韓

三國及び任那

神功皇后

神功皇后舟師を率ゐて、新羅を討ちたまふ

王仁論語及び千字文を應神天皇に獻す

菟道稚郎子儒學を學びたまふ

工藝の傳來

秦氏絹を朝廷にたてまつる

豊受大神宮

雄略天皇の皇后御みづから蠶を飼はせたまふ

第六 佛教の傳來と美術工藝の發達

釋迦牟尼

百濟王の使者佛像經文を欽明天皇に獻上す

蘇我稻目と物部尾與と大いに佛を拜することの可否を論ず

物部守屋佛像を難波の堀江に投ぜしむ

法隆寺西院全景

天平時代の美術工藝品

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第六)

第七 支那との交通

遣唐使出發の光景

渡唐船

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第七)

第八 大化の改新

中大兄皇子中臣鎌足と共に南淵請安につきて儒學を學びたまふ

大織冠藤原鎌足

戸籍調査の官吏

第九 東北地方の開拓と朝鮮半島の離反

阿倍比羅夫遠征地方

阿倍比羅夫の奮戦

三國時代の朝鮮半島

新羅統一頃の朝鮮半島

副伊金備新羅王をあさける

大葉子の真心

朝鮮半島に關係ある行宮所在地

唐が百濟國を平げた時に建てた碑

◎源氏物語繪詞の擴方

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第九)

第十 律令の制定

大津京

藤原不比等

太宰府

筑前太宰府の都府府古址

太政官印と大藏の印

萬水戸

第十一 奈良時代の學藝・風俗

近畿地方歴代皇居所在地

平城京

西南諸島

令人親王

太安麻呂古事記を撰す

吉備道備

柿本人麻呂

山部赤人

奈良時代の文官及び武官の服裝

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第十一)

第十二 奈良時代の佛教

國分・國分寺の配置圖

東大寺大佛殿正立面圖

奈良の大佛

正倉院及び御物

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第十二)

第十三 平安時代初期の發展

桓武天皇

平安京圖

大内裏圖

内裏圖

平安神宮

坂上田村麻呂の木像

坂上田村麻呂蝦夷征伐地方

僧空海と僧最澄

三筆・嵯峨天皇・僧空海・橘逸勢)筆蹟

第十四 藤原氏の專權

菅原道真

太宰府の道真

官幣中社北野神社

第十五 朝臣の榮華と文化

廢殿造及びその平面圖

平安時代文官及び女官の禮裝

巨勢金岡繁家殿の障子に支那名臣の像を畫く

紀貫之

小野道風

書道の三蹟

清少納言

平等院鳳凰堂

— 金銅造の鳳凰 —  
— 木殿の内部分 —  
— 平面圖 —  
— 側立平面圖 —

第十六 武士の興起

平貞盛平將門をうつ……………三〇  
源經基等藤原純友をうつ……………三〇  
前九年の役……………三〇  
後三年の役……………三〇  
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第十六)……………三六

第十七 院政 武士の勢威

後三條天皇……………三〇  
僧兵の強訴……………三〇  
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第十七)……………三六

第十八 平氏の驕奢

後白河法皇……………三〇  
平清盛……………三〇  
平重盛……………三〇  
嚴島神社……………三〇  
後白河上皇院御所を出てたまふ……………三〇

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第二十)……………三六

第二十一 元寇

箱崎八幡宮……………三七  
敵國降伏の動願……………三七  
博多附近要地圖……………三七  
蒙古襲來航路圖……………三七  
元軍の渡渡……………三六  
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第二十一)……………三六及び三九

第二十二 鎌倉時代の文化

鎌倉時代武士の邸宅……………三九  
大迫物……………三九  
流鏑馬……………三九  
北條實時と金澤文庫の印……………三九  
藤原定家の筆蹟……………三九  
僧茶西……………三九  
曾源空・親鸞・日蓮……………三九  
法然上人の布教……………三九  
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第二十二)……………三九及び四二

第二十三 北條氏の滅亡

後鳥羽上皇……………四二  
後醍醐天皇……………四二

平家納經の一部……………四二  
木曾義仲植生八幡宮に祈願文をたてまつる……………四二  
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第十八)……………四六

第十九 鎌倉幕府の創設

源賴朝勃興地……………四六  
鎌倉地方の圖……………四六  
源平二氏京都附近戰地圖……………四六  
屋島……………四六  
壇浦附近地圖……………四六  
源平二氏瀬戸内海附近戰地圖……………四六  
源賴朝奥州征伐進路圖……………四六  
平泉地方圖……………四六  
高館の遠望……………四六  
陸中中尊寺金色堂の外観……………四六  
曾我兄弟の夜討……………四六  
鎌倉時代の風俗……………四六  
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第十九)……………四六及び四八

第二十 北條氏の民政

北條泰時置英民を救ふ……………四八  
北條時頼……………四八  
松下禪尼……………四八  
北條時頼諸國をめぐるて民の困苦を問ふ……………四八

第二十四 建武の中興

後醍醐天皇京都にかへりたまふ……………四八

第二十五 吉野朝廷

北畠親房及びその筆蹟……………四八  
◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第二十五)……………四八及び五二

第二十六 室町幕府の盛時

足利義滿及びその筆蹟……………五二  
金關正立圖……………五二  
永樂通寶……………五二  
明成祖勅諭……………五二

第二十七 關東管領

足利學校と足利學校の印……………五二  
第二十八 室町幕府の衰微  
赤松滿祐將軍義教を害す……………五二  
足利義政……………五二  
義政の筆蹟……………五二  
應仁の亂合戰の圖……………五二

諸大名割據圖……………

京都附近……………

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第二十八)……………

第二十九 室町時代の文化

雲舟……………

室町時代武士の服装……………

室町時代の風俗……………

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第二十九)……………

第三十 京都の疲弊

後土御門天皇世の安穩を祈らせたまふ……………

皇室の御衰微……………

後奈良天皇御文を寫したまふ……………

後奈良天皇宸筆般若心經……………

第三十一 戰國時代の大事

應仁亂後における關係……………

今川・織田二氏の領地……………

三方ヶ原の戰……………

武田・北條・徳川・織田四氏の領土……………

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第三十一)……………

第三十二 邦人の海外渡航 西洋人の渡來

明及び南洋地方圖……………

ザビエル……………

南蠻人來航關係地圖・ザビエル行路……………

南蠻寺……………

南蠻寺の鐘……………

南蠻人の渡來……………

◎教科書挿繪の解(高等小學國史 上卷 第三十二)……………

# 高等小學國史繪圖解説書(上卷)

目次終

中村孝也著

## 聖徳太子(國史繪圖)

聖徳太子は、第三十一代用明天皇の第二皇子で、御名を履戸皇子と申し、また豐聰耳皇子とも、上宮皇子とも申し上げる。聖徳太子とは後の人が、その徳行をたゞへたてまつれる御名である。御母は穴穂部間人皇后でいらせられる。皇后が御懷妊のとき御所の中を御巡視せられ、御厩の戸の所に至り、安々と太子を生ませられたといふ。太子は御天賀きはめて聰明にいらせられ、一時に十人の訴を聴かれても間違ひなく裁断せられたといひ傳へられる。佛教を高麗の僧惠慈に習ひ、儒教を博士覺智に學び、悉く之に通達せられた。推古天皇の皇太子となられて後は、攝政として國政を運用したまひ、制度の制定、支那との交通、佛教の振興、學問美術の保護等に力を盡された。制度の制定には徳仁禮信義智各大小二階づゝより成る冠位十二階を定め、有名なる十七條の憲法を頒てること、曆法を採用せること等がある。支那との交通には、小野妹子を二度、大上御田鍬を一度、いづれも隋に遣して、支那文化輸入の機運を開ける

聖徳太子

ことがある。佛教の振興には四天王寺・法隆寺・法興寺などの寺院を建て、僧尼を度し、經典を講ぜられたことなどがある。天皇の末年には、寺院四十六・僧尼千三百人の多きに達した。學問美術の保護には、國史の編纂、建築・彫刻・繪畫・刺繍・鑄金等の發達などがある。この時代を世に推古時代ともいひ、皇居の所在によつてまた飛鳥時代ともいふ。

飛鳥時代は古代史に燦として輝く時代である。その時代の中心人物たりし太子の思想が、國家觀念を中心として、儒教と佛教とに包含せられたる優秀なる文化を攝取し、新文化を建設せられたのは、實に一大壯觀であつた。

太子の中心思想は國家觀念であつたといふことは極めて大切なことである。今これを三段に分つて論證しよう。先づ(第一)に太子は皇太子でおはしまし、攝政として實際大權を總攬したまひ、將來天皇となつて名實共に國家の主權者となるべき自覺を十分に有つて居られた。この御地位、御境遇上、太子が國家を中心として萬事を御考へになることは、極めて明白なる次第で

高等小學國史繪圖解說書 上卷 終

解説書高等科用下巻  
纂中今學年中に完成

昭和五年四月十五日印  
昭和五年四月二十日發

印刷

非賣品

高等  
小學國史繪圖  
解説書  
上卷

著者 中村孝也

發行者 西村辰五郎  
株式會社學習社代表者  
東京市神田區通神保町一番地

印刷所 三省堂蒲田工場  
株式會社  
東京市外蒲田

發行所

東京市神田區通神保町一番地  
電話 一三二六番  
大阪市西區中通二丁目  
電話 三六一七番

株式會社 學習社  
株式會社 學習社大阪支店